



(19)

Generated Document

(11) Publication number:

0:

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN(21) Application number: **01121000**(51) Intl. Cl.: **B62M 27/02**(22) Application date: **15.05.89**

(30) Priority:

(43) Date of application **12.12.90**
publication:(84) Designated contracting
states:(71) Applicant: **HONDA MOTOR CO L**(72) Inventor: **KATAGIRI NAGATOSHI
NAKAMURA TADANORI**

(74) Representative:

(54) SMALL SNOW MOBILE

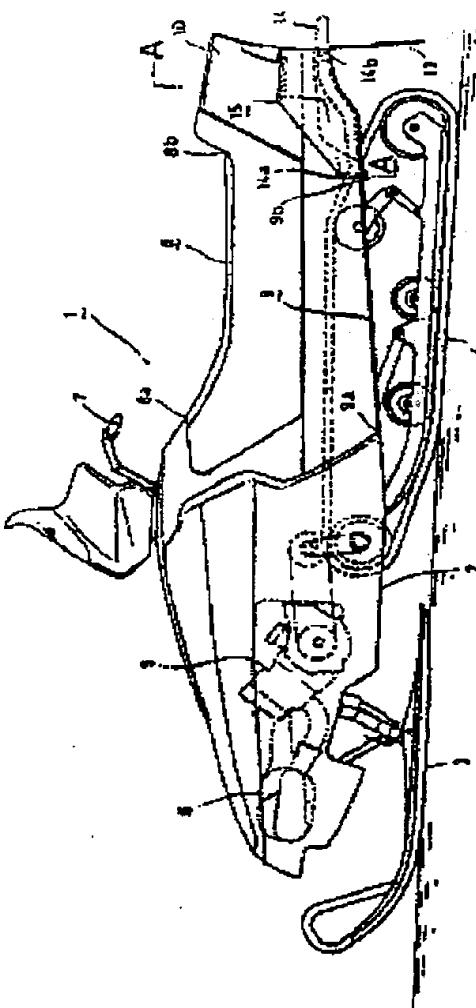
(57) Abstract:

PURPOSE: To effectively prevent flinging up of snow by a method wherein steps having length approximately equal to that of a passenger seat are mounted to both sides of the passenger seat, the tip of a rear bumper is connected to a car body near the rear edge of the step, and the connection part is covered with a side box.

CONSTITUTION: A small snow mobile 1 is formed such that a ski 3 is disposed to the lower front part of a car body 2, a truck belt 4 is disposed to the lower rear part thereof, and an engine 5 is mounted on the front part of the car body, a handle 7 to the central part of the car body, and a seat 8 for a passenger to the rear half part of the upper part of the car body. In this case, steps 9 for placing a foot having length approximately equal to that of the seat 8 for a passenger are positioned in juxtaposition to both sides of the seat 8 for a passenger.

The step 9 is formed such that a front edge 9a is positioned slightly more in front than a front edge 8a of the seat 8 and a step rear edge 9b is positioned slightly more in front than a seat rear edge 8b. A step rear edge 9b is arranged in a manner to be positioned slightly more in front than a seat rear edge 8b. A tip 14a of a rear bumper 14 is connected to a car body near the rear edge 9b of the step 9, and a connection part therebetween is covered with a side box 15.

COPYRIGHT: (C)1990,JPO&Japio



②公開特許公報(A) 平2-29994

③Int.Cl.⁹
B 62 M 27/02識別記号 斧内整理番号
H 6941-3D

④公開 平成2年(1990)12月12日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全5頁)

⑤発明の名称 小型雪上車

⑥特願 平1-121000

⑦出願 平1(1989)5月15日

⑧発明者 片桐長利 埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究所内

⑨発明者 中村忠能 埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究所内

⑩出願人 本田技研工業株式会社 東京都港区南青山2丁目1番1号

⑪代理人 弁理士 下田容一郎 外2名

明細書

1. 発明の名称

小型雪上車

2. 特許請求の範囲

車体下部の前部にスキー、後部にトラックベルトを備え、車体上部にハンドル及びに乗員シートを備えた小型雪上車において、

前記小型雪上車は、乗員シートの両脇に跳シートと略等長なステップを備えるとともに、このステップの後端近くの車体にリヤバンパの先端を接続し、該接続部分をサイドボックスで覆ったことを特徴とする小型雪上車。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は小型雪上車の改良に関するものである。

(従来の技術)

前に1本又は2本のかじ取り用スキーと、後にキャタピラ状裏敷用トラックベルトを備えて雪上を走行する所謂スノーモービルは、交通、運輸、レジャー用として普及しつつある。このス

ノーモービルはブルドーザのような大型雪上車と区別して小型雪上車と呼ばれ、軽量・小型であるが故に装備の面でも大型雪上車と種々異なる。

小型雪上車では、その限られたスペースに修理用道具や補修用品等の小物を収納する物入れを設けなければならず、そのためのスペースを確保することは容易でない。

特公昭51-33828号公報には、車体前面上面に物入れを設けた小型雪上車が示されている。

また、小型雪上車は増々高速走行仕様になり、後方へ跳ね上げる雪や雪煙が従来車に与える影響が増大し、従来はスノーフラップと称するゴム又はプラスチックシートをトラックベルトの後方に吊下し、スノーフラップにて跳ね上がり雪を遮断するようにしてたものがある。

(発明が解決しようとする課題)

しかし上記スノーフラップは後方へ飛ぶ雪を遮る代りに、この雪の一部を左右に吹き出す所附着もれ現象を引き起す。更に、この機にもれた雪の一部が巻き上り前方のステップやシートや乗員

この不具合を解決する一策に、上記スノーフラップと同様なシートを車側部に吊下する方式はある。しかし、このサイドスノーフラップは走行中に左右に振れて乗用車上好ましくない。別の策として、ステップを後方へ延長する方式もある。しかしこれを採用するこ重量増加を開始し又変調を損ねる虞れがあり、やはり好ましくない。

一方、小型雪上車は物入れを車体前面に設けるなどそのスペース確保に苦心して設計される。車体前面にはエンジンが収容される關係上、十分な物入れスペースを確保することは難しい。

よって、小型雪上車に特有な物入れならびに雪の巻き上りの問題を解決する技術が必要になってい。

(課題を解決するための手段)

上記要件に応えるべく本発明は、小型雪上車の乗員シートの両脇に該シートと略等量なステップを備えるとともに、このステップの後端近くの車体にリヤバンパの前部を取り付け、該接続部分をサ

ッブ9、9がシート8と並設されている。

これらステップ9、9はシート8と略等しい量であって、第1図に示すようにステップの後端9aはシートの前縫8aより少し前に位置し、且つステップの後端9bがシート後縫8bより少し前に位置せしめてあることに特徴がある。

第3図は小型雪上車後部の分解斜視図であって、車体フレーム2aはトラックベルト4を通過せしめる構2bを有するとともに、両側に前記ステップ9、9を張出すべく鋼板をプレス成形して成したものである。車体フレーム2aの上面には乗員用シート8並びにリヤカウル10が適宜ボルト止めされる。

更に、車体フレーム2a両側に補強アングル11、11、12、12及び孔開きピース13、13が矢張りベット止めされている。

補強アングル12の後方部分がステップ後縫9bから露出していて、この露出部分にパイプ状リヤバンパ14の先端14aをボルト止めし得る。また、リヤバンパ14の長手方向中間部

(作用)

サイドボックスに物品を出し入れするには、リッドを開くことで可能となる。

このサイドボックスが雪の巻き上りを防止し、ステップやシートへの雪の付着を防ぐ。

(実施例)

本発明の実施例を概要図面に基づいて以下に説明する。

第1図は本発明に係る小型雪上車側面図、第2図は同平面図である。

小型雪上車1は車体2の前部下部にスキーサークル3、3、後部下部にトラックベルト4を配置するとともに、車体2の前部にエンジン5及び排気管6などを収納し、車体中央部にハンドル7を起立し、車体上部後半部に乗員用シート8を配設してなる。

前記乗員用シート8は乗員好みに合せて姿勢を変え得るように車体方向に並めに形成されている。このシート8の両脇には乗員の足置き用ステ

ップ9、9がシート8と並設されている。

リヤバンパ14の側方に図示したのがサイドボックス15、16であって、サイドボックス15はプラスチックの射出成形者しくは金属板の板金加工からなるボックス状物入れであり、開閉自在なリッド15aを備え、車体側ヘフランジ15b及びリブ15cを突起する。

サイドボックス16は上記サイドボックス15と所謂勝手反対の構成である。

以上の物品構成からなる小型雪上車の作用を次に述べる。

第4図は第1図のA-A線断面図であり、車体フレーム2aに乗員シートを組付けた後に、図示するごとくリヤカウル10をボルト81にて取付ける。

次いで、車体フレーム左右下部に付設した補強アングル12へ、先ずサイドボックス15のフランジ15bを載せ、統いてリヤバンパ14の先端14aを差し入れ、これらリヤバンパ先端14aとサイドカバーのフランジ15bと、補強アング

更に、サイドボックスのリップ15aをリヤカウルの構10aに差し入れつつ、これらをボルトB3、ナットN3にて共締めするとともに、リヤバンパの長手方向中間部14bとサイドボックス15とをボルトB4、ナットN4にてビース13へ共締め(第3図参照)する。

以上の如くして、ステップ9の後縁9bに位置する補強アングル12にリヤバンパ14の先端14aをボルト止めし、リヤバンパ14を後方へ突出したこと、そして、このリヤバンパ14の車側部分即ち先端14aから中間部14bまでを第1図に示す如く、サイドボックス15、16で覆ったことを特徴としている。

よって、サイドボックス15、16はスノーフラップ17に衝突して左右(第1回変向方向)にもれる雪の一部を遮蔽し、この遮蔽作用によってステップ9やシート8への雪の巻き込みを防ぐ作用をなす。

第4図は第1図のA-A線断面図。

- | | |
|------------|-----------|
| 1…小型雪上車 | 2…車体 |
| 3…スキー | 4…トラックベルト |
| 8…乗員用シート | |
| 9…ステップ | 9b…後縁 |
| 14…リヤバンパ | 14a…先端 |
| 15…サイドボックス | 15a…リッド |
| 16…サイドボックス | 16a…リッド |

特許出願人 本田技研工業株式会社
 代理人 井理士 下田啓一郎
 同 井理士 大城邦彦
 同 井理士 小山有

同一長の矩形若しくは台形を底とするボックスであるから、それらのリッド15a、16aを任意に開くことで、かなりの量の物品の出し入れができる。

尚、本実施例ではサイドボックス15、16をリヤカウル10にもボルト止めしたが、これに限るものでなく、例えば車体フレーム2aにのみ係止しても良い。

(発明の効果)

以上に述べた通り本発明によれば、サイドボックスを設けることによりリヤバンパの長手部分の大半を覆って美観を保ち、またステップやシートへの巻き込み雪の竹着を防止しつつ、物入れスペースを増加せしめるなどの効果を發揮する。

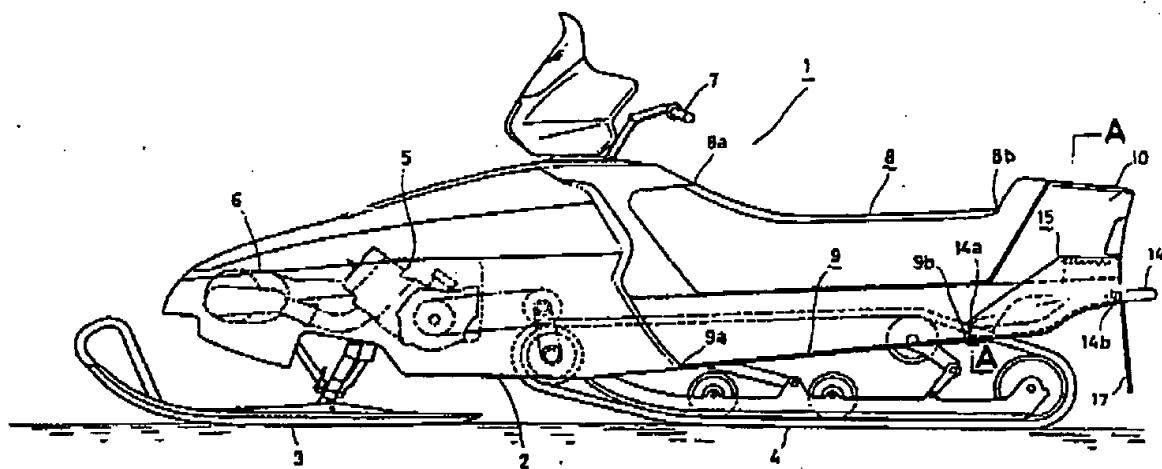
4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明に係る小型雪上車側面図。

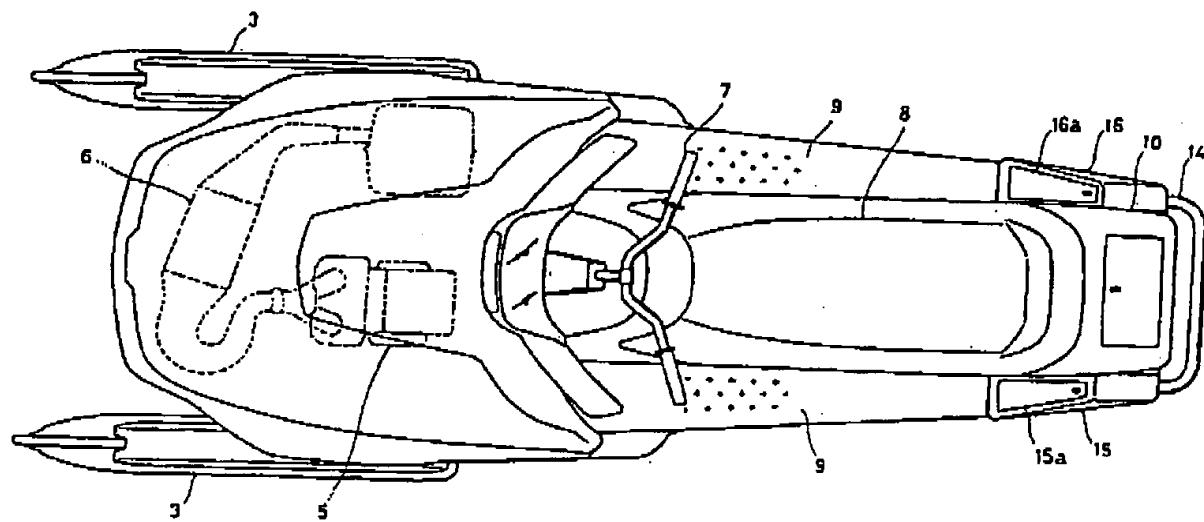
第2図は両平面図。

第3図は小笠雪上車後部の分解斜視図。

第1図

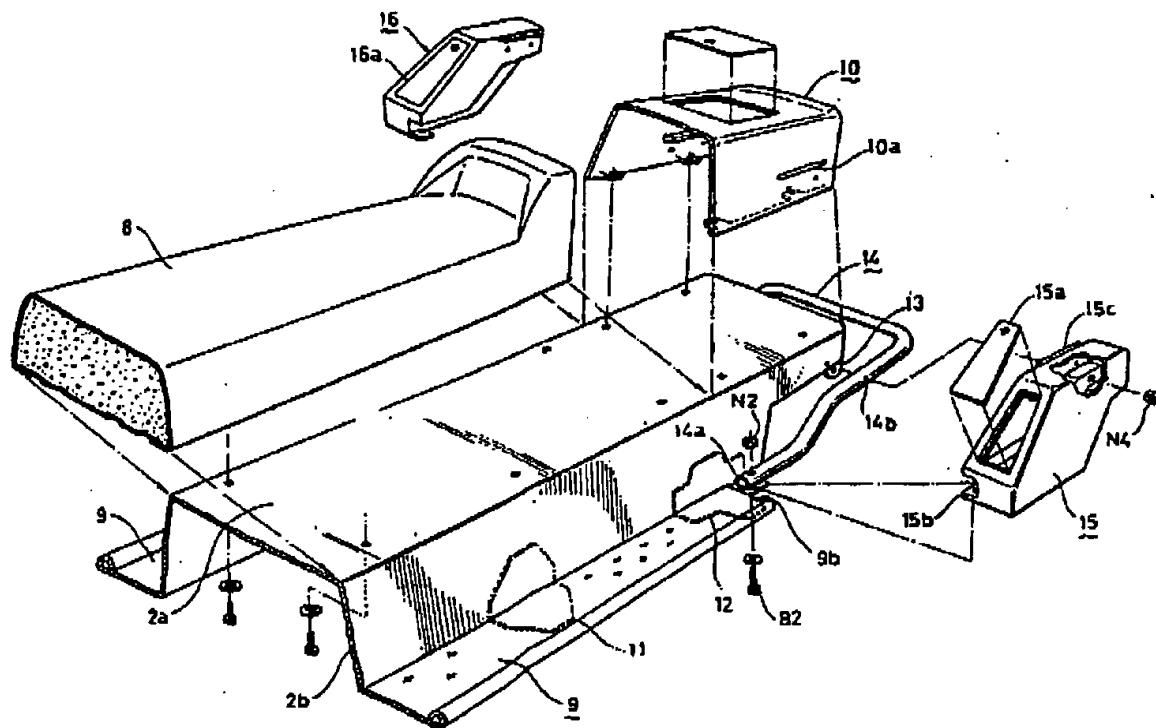


第2図



特開平2-299994(5)

第3図



第4図

